16 世紀前半バーゼルにおける近代的書物形態の発展について
―ページ付け本の発展プロセスを中心にして―

雪嶋　宏一

要　旨

印刷本のページ付けは 1499 年にヴェネツィアのアルド・マヌーツィオが索引のために初めて行った。彼はギリシャ・ローマ古典等 17 版のページ付け本を刊行した。それらはページ番号の位置によって A-C のタイプに分類される。アルドの印刷活動はバーゼルの印刷業者に影響を与えた。特にヨハン・フローベンが 1515 年に人文主義書にアルド A タイプでページ付けを行った。それを契機にバーゼルではギリシャ・ローマ古典と人文主義書を印刷する印刷業者がページ付けに熱心に取り組んだことでページ付け本の出版が広まった。バーゼルでは 1520 年代前半にページ付け本に著者名，書名，印刷地，印刷業者名，印刷年を記載する標題紙を付加したヴァレンティン・クーリオのような印刷業者が登場して，近代的書物形態を完成させていった。一方，シュトラスブルクではページ付けに熱心に取り組む印刷業者が限られており，またゴシック体活字を使用してページ付けのないドイツ語書が多く刊行されて，人文主義書が少なかったことから，ページ付け本がバーゼルほどには発展しなかった。

Summary

A Venetian printer, Aldus Manutius, first printed a paged book for the index in 1499. He published 17 editions of paged books such as Greek and Roman classics. His pagination is classified into three types A-C with the position of printed page numbers. His activities had an influence on some printers in Basel and among them Johann Froben first printed a paged book based on Aldus' Type A in 1515. Froben's printing technique of pagination spread among the printers in Basel, who published Greek and Roman classics and humanist books. They printed paged books in roman, italic, and Greek types. Valentin Curio added a title page including a name of author, a title of book, a place of printing, a name of printer, and a date of printing in the paged book and completed the modern book-form in the first half of the 1520s. On the other hand, paged books did not develop in Strasbourg so much as in Basel, because only a few printers made paged humanist books and most printers published many German books without pagination in gothic type.

１．研究の目的

近代的な書物は標題紙，目次，前書き，索引等のパラテクストと本文から構成され，それらをページ付けによって有機的に順序立てている。それらの各要素は 15 世紀末までには出現していたが，それらが 1 冊の書物を構成して近代的書物形態が誕生したのは 16 世紀になってからである。ところが，その発展のプロセスについてはこれまでほとんど研究されておらず，どこで誰が近代的書物形態を生み出し発展させたのかは未だ十分に解明できていない。これらの要素の中でも特にページ付けの発展プロセスについては研究が遅れている。本研究では，印刷本のページ付けの発展に着目して，16 世紀のヨーロッパで印刷業が発達した主要な都市で刊行された印刷本におけるページ付けの比率を調査して，比率が高い都市におけるページ付けの発展プロセスを分析して，近代的書物形態がどのようにして誕生し発展したのかを解明することを目的としている。

２．研究の経緯

筆者は 16 世紀に印刷業が発達した主要な 20 都市で刊行された印刷本の中からページ付け本を抽出して，生産量全体に対する比率を比較した。その結果，1499 年にヴェネツィアのアルド・マヌーツィオ（Manuzio, Aldo, 1450 頃–1515）によって開始された印刷本のページ付けは 16 世紀前半にはバーゼル，シュトラスブルク，ケルン，マインツ，リヨンで盛んになった。これらの都市の中で最もページ付け本の出版が盛んであったのはバーゼルである。バーゼルではページ付け本の比率は 1518 年に 50.59％となり，1539 年には 86.75％に達していた。続いて比率が高くなったのはケルンであり，1534 年に 42.25％に達した。次に比率が高まったのがリヨンであり，1536 年に 36.2％となり，1545 年以は 50％に達した。なお，シュトラスブルクでは 1540 年に 22.22％であり，ページ付け本の比率が著しく高まることはなかった。

16 世紀前半にページ付け本の印刷に熱心であった印刷業者は，バーゼルのフローベン印刷所（Froben, Johann, 1460 頃–1527; Froben, Hieronymus, 1501–63），クラタンデル（Cratander, Andreas, 1540 没），ヘインリヒ・ペトリ（Petri, Heinrich, 1508–79），ヘアヴァーゲン（Herwagen, Johannes, 1497 頃–1558 頃），ケルンのギムニヒ（Gymnich, Johann, 1551 没），リヨンのグリフ（Gryphe, Sébastien, 1491–1556），マインツのシェーファー（Schöffer, Ivo, 1555 没），シュトラスブルクのミューラー（Müller, Kraft, 1503 頃–1547）等であった。

そして，この時代に印刷されたページ付け本は，エラスムス（Erasmus Desiderius, 1466–1536），メランヒトン（Melanchthon, Philipp, 1497–1560），アルチアート（Alciato, or Alciati, Andrea, 1492–1550），ルター（Luther, Martin, 1483–1546）等の 16 世紀の学者と，キケロ（Cicero, Marcus Tullius, 前 106–43），ガレノス（Galenus, Claudius, 130 頃–201），アエソポス（Aesopus, 前 6 世紀），アリストテレス（Aristoteles, 前 384–322），オウィディウス（Ovidius Naso, Publius, 前 43–後 17）等の古代ギリシャ・ローマの古典作品であり，特に，エラスムスの著作へのページ付けが顕著で

あった。

16 世紀中葉から後半において印刷本のページ付けの比率が 50％を超えていたのはバーゼル，ケルン，リヨンであり，1585 年からフランクフルト・アム・マイン（以下，フランクフルト）でも 50％を超えていた。この期間の平均比率は 26.04％であるが，1580 年に 30％を超えて，1590 年に 41.38％となり，漸くページ付けが主要な印刷地で普及したと言えるまでになった。地域別では，イタリアではフィレンツェで一時高まるが，1590 年では全体的に 30％台後半に上昇した。しかし，ページ付けの発展は比較的鈍かった。一方，バーゼル，ケルン，フランクフルト等のライン川流域地方では，バーゼルは 1555 年に 91.26％を記録し，ケルンでは 1580 年に 71.83％に達し，フランクフルトでは 1590 年に 64.57％となり，最もページ付けが発展した地域であった。続いてリヨンでページ付けが発展し 1555 年に 65.10％に達し，1590 年には 62.96％であった。パリでは 1585 年に 33.89％になり，さらに 1590 年に 63.23％に達した。アントウェルペンでは 1570 年に 42.27％に達するが，その後下降した。ロンドンでは徐々に上昇して 1590 年に 47.28％に達した。しかし，ドイツの印刷中心地である南部のアウクスブルクとニュルンベルク，東部のヴィッテンベルクとライプツィヒではページ付けはほとんど発展しなかった。

16 世紀後半にページ付け本が盛んに印刷された著者は，キケロ，アリストテレス，オウィディウス，エラスムス，メランヒトン等の古代ギリシャ・ローマの著述家と人文主義者であり，16 世紀前半と類似した傾向である。しかし，聖書および聖書各書，カトリック教会刊行物，イエズス会の書物，フランス王アンリ 3 世（Henri III, 在位 1574–89）治世下の政府の出版物等の新たな分野でもページ付けが広まっていたことを指摘した[1]。

以上のような統計学的な研究成果に基づいて，本稿では 16 世紀前半において印刷業者が実際にどのようにページ付けを行い，その技術がどのように普及していったのかという技術的な普及に関する問題を解明するため，アルド・マヌーツィオのページ付けの分析と，その影響を受けたバーゼルの印刷業者によるページ付けの特徴について分析する。そして，バーゼルと距離的に近いが，ページ付け本の比率が上昇しなかったシュトラスブルクの事情と比較して，ページ付け普及の要因について考察する。

3．アルド・マヌーツィオのページ付けの方法

アルド・マヌーツィオは 1499 年から 1514 年までに表 1 に示すページ付け本 17 版を刊行した。

これら 17 版のうち 13 版がギリシャ語書で，残り 4 版がラテン語書（表 1：1, 6, 8, 10）である。アルドのページ付けの方法は，ページ番号の印刷位置によって A-C の 3 タイプに分類できる（図 1）。A タイプはページ番号が表面のヘッドライン右端と裏面のヘッドライン左端，つまり見開きでは左ページではヘッドライン左端，右ページではヘッドライン右端に印刷されたもの。B タイプは表・裏面ともヘッドラインの中央に印刷されたもの。C タイプは表・裏面ともヘッドライン右端に印刷されたものである。そして，A タイプは索引・目次の有無によって，索引ありを A-I，目次ありを

表 1　アルド・マヌーツィオが刊行したページ付け本の版

No	印刷年	著者	書名（データベース No)	対照事項
1	1499	Perotti, Niccolò	*Cornucopiae linguae latinae* (ISTC ip00296000)	Folio; 30 leaves, 642 [2] p.
2	1503	Lucianus	*Que hoc volumine continentur. Luciani Opera* (EDIT 16 CNCE 63229)	Folio; [2], 571 [i.e. 572], [2] p.
3	1504	Demosthenes	*Demosthenis Orationes duae & sexaginta* (EDIT 16 CNCE 16732)	Folio; [28], 320, 286 [i.e. 288], [8] p.
4	1504	Iohannes: Philoponus	*Ioannis Grammatici In posteriora resolutoria Aristotelis commentaria. Ioannou tou grammatikou* (EDIT 16 CNCE 36161)	Folio; 295, [25] p.
5	1505	Aesopus	*Vita & fabellae Aesopi cum interpretatione Latina* (EDIT 16 CNCE 334)	Folio; 142 [i.e. 140] p., 172 col., [68] p.
6	1508	Plinius Caecilius Secundus, Gaius	*C. Plinii Secundi Nouocomensis Epistolarum libri decem* (EDIT 16 CNCE 37420)	8vo; [24], 525, [3] p.
7	1508	Rhetores Graeci	*Rhetores in hoc volumine habentur hi* (EDIT 16 CNCE 2146)	4to; [16], 734, [2] p.
8	1509	Horatius Flaccus, Quintus	*Q. Horatii Flacci Poemata* (EDIT 16 CNCE 22679)	8vo; [48], 310, [2] p.
9	1509	Plutarchus	*Plutarchi Opuscula. LXXXXII. Index moralium omnium* (EDIT 16 CNCE 37429)	4to; [16], 1050, [2] p.
10	1509	Sallustius Crispus, Gaius	*C. Crispi Sallustii De coniuratione Catilinae. Eiusdem De bello Iugurthino* (EDIT 16 CNCE 37431)	8vo; [16], 279, [1] p.
11	1512	Chrysoloras, Manuel	*Erotemata Chrysolorae* (EDIT 16 CNCE 12129)	8vo; 296 p.
12	1513	Alexander Aphrodisias	*Alexandri Aphrodisiei In Topica Aristotelis, commentarii* (EDIT 16 CNCE 1034)	Folio; [4], 281, [3] p.
13	1513	Demosthenes	*Demosthenis Orationes duae & sexaginta* (EDIT 16 CNCE 16733)	4to; [28], 320, 286 [i.e. 288], [6] p.
14	1513	Oratores Graeci	*Orationes horum rhetorum Aeschinis. Lysiae. Alcidamantis …* (EDIT 16 CNCE 37441)	Folio; 3 vols., 197, [3], 162, [2], 197 [3], 98–167 [3] p.
15	1513	Pindarus	*Pindari Olympia, Pythia, Nemea, Isthmia* (EDIT 16 CNCE 37448)	8vo; [16], 373, [3] p.
16	1513	Plato	*Omnia Platonis opera* (EDIT 16 CNCE 37450)	Folio; [32], 502, [2], 439, [1] p.
17	1514	Athenaeus	*Deipnosophistou ten polumathestaten pragmateian nun exesti soi* (EDIT 16 CNCE 3340)	Folio; 38, [2], 294, [2] p.

A-II，索引も目次もないものを A-III のサブタイプに区分する（表 2）。

アルドは A-C の 3 種類のタイプを 1508 年までに試みて，最終的に A タイプを選択した。ページ付けの目的は，最初は索引のためであったが，その後は目次のためとなり，まもなく索引も目次もない本でもページ付けが行われるようになった。しかし，アルド没後にはアルドの後継者たちも，またヴェネツィアの他の印刷業者もページ付けにはあまり関心がなかったため，ヴェネツィアでは発展しなかった。むしろアルドの影響はバーゼルの印刷業者に及んだ[2]。

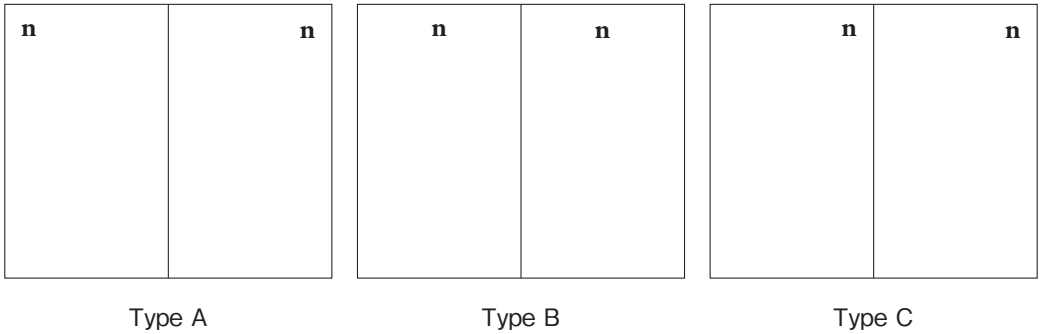


図 1　アルド・マヌーツィオのページ付けの方法

表 2　アルド・マヌーツィオのページ付けの分類

タイプ	ページ番号の位置	サブタイプ	特　徴	表 1 の番号
A	ページ番号が表面ヘッドライン右端と裏面ヘッドライン左端	A-I	索引あり	1
		A-II	目次あり	3, 7, 9, 13, 14, 16
		A-III	索引・目次なし	4, 5, 8, 10, 12, 17
B	表・裏面ともヘッドライン中央			2（目次あり），11
C	表・裏面ともヘッドライン右端			6（目次あり）， 15（目次あり）

4．フローベンのページ付け

バーゼルにおけるアルドの影響は 1513 年から人文主義書の刊行を始めたヨハン・フローベンに見ることができる。フローベンはそれまで聖書，神学，教会法等の書物を中心に印刷業を営んでいたが，1513 年にエラスムスの主著『格言集 Adagia』を刊行して人文主義書の印刷を開始した。その背景には 1510 年に地元の有力書籍業者ラフナー（Lachner, Wolfgang, 1465 頃–1518）の娘ゲルトルート（Lachner, Gertrud）と結婚したことで，ラフナーの影響のもとでフローベンはエラスムス『格言集』をエラスムスに無断で印刷した[3]。フローベンが底本にした版はアルド・マヌーツィオが 1508 年に刊行したものである。ところが，エラスムスはこれを契機にバーゼルに赴いてフローベンに『格言集』の改訂増補版を刊行するように約束させ，フローベンはその版を 1515 年に刊行することになった。この版は同年中に 2 版刊行された（VD 16 E 1933, 1934）。また，同年にはエラスムス編集のセネカ（Seneca, Lucius Annaeus, 前 5 頃–後 65）『著作集 Lucubrationes omnes』も刊行して，エラスムスとの繋がりを強めた。フローベンはこれら 3 書にバーゼル最初のページ付けを行った。

『格言集』（fol. VD 16 E 1933）では前付け 24 葉に標題紙，序文，3 種類の索引があり，本文が始まる 25 葉表からアルドの A-I タイプで pp. 1–634 までページ番号を付与して，索引でページ番号を示した。つまり，本書では本文のみにページ付けが行われた。折丁 i では 97, 89, 99, 001, 101–106,

167, 108というページ番号の誤植があるが，その他の箇所では誤植は少ない。

翌年に刊行されたエラスムス編訳『ギリシャ語版新約聖書 Novum Instrumentum』初版（fol., VD 16 B 4196）では前付けの序文（$3a^6$ $3b^8$）の後に続く新約聖書の本文と注解にアルド A-III タイプでページ付けが行われた。本文はギリシャ語を左欄，ラテン語訳を右欄に置く2欄組である。

1517年刊行のエラスムス『平和の訴え Quaela pacis』（4to., VD 16 E 3488）では1葉裏に‘Index’という目次があるがページは示されていない。本文が3葉表から始まり，アルドの A-II タイプでページ付けが3葉裏の p. 2 から始まり，p. 642 まで誤植やページ番号の欠落を含みながら続く。全体としてページ番号の誤植は少なく，技術的に向上している。本書でもページ付けは本文のみである。

一方，1518年刊行のギリシャ語・ラテン語対訳版アイソポス『寓話集 Vita et fabellae』（4to., VD 16 A 415）ではページ付けは1葉表の標題紙を起点とし，1葉裏の p. 2 からアルドの A-III タイプで始まり，ギリシャ語本文が偶数ページ，ラテン語書が奇数ページに置かれた。続いて折丁 r1 表からホメーロス（Homerus）の『カエルと蛇の戦い Batrachomyomachia』が始まり，新たに pp. [1] 2–126 のページ付けが行われた。本書ではページ付けは巻頭の標題紙を起点としていた。

同年にフローベンは枢機卿カステッレジ（Castellesi, Adriana, 1460頃–1521頃）『ラテン語説教 De sermone Latino』（4to., VD 16 C 1454）で前付けの $2a\text{-}2b^4$ で標題紙，序文，索引（ページ番号を示す）を置き，続いて折丁 a から始まる本文の2ページ目からページ番号を振り，422ページまで若干の誤植を含みながらアルド A-I タイプで番号付けした。

つまり，フローベンは，前付けに索引や目次を含む場合には本文のみにページ付けを行い，索引を含まないが本文のみにページ付けを行う場合，索引も目次もない時に標題紙をページ付けの起点とする場合があり，いずれもアルド A タイプによるページ付けである。それらの活字はローマン体かイタリック体で，ページ番号はアラビア数字を使用した。なお，フローベンは標題紙にホルバイン（Holbein, Hans, the Elder, 1460–1524; the Younger, 1497頃–1543）の表現豊かな木版画の縁飾りを使用して，その中に著者，書名，内容，印刷地については記載したが，印刷者名，印刷年の情報は従来通り奥書に記述していて，刊記の情報をすべて標題紙に掲載するような近代的な標題紙の完成には至らなかった。

5．アダム・ペトリのページ付け

フローベンに次いでページ付けを行ったのはアダム・ペトリ（Petri, Adam, 1454–1527）である。彼の最初のページ付け本は1517年刊行のムルメリウス（Murmellius, Johann, 1480–1517）『子どもの食べ物 Ruremundensis libellus optatissimus』（4to., VD 16 ZV 11254）である。本書は前付け（$2a^4$）に‘Index rerum’と題する目次を置き，それに続く折丁 a1-o2 の54葉が2欄組でコラム番号が1–216まで各コラムのヘッドライン中央に振られ，o3 表から1欄組でページ付けに変わり，pp. 217–257をアルドの B タイプでページ番号を振った。しかし，ペトリは p. 217 以降も Index では‘col.’（コ

ラム番号）と表記しており，ページ番号という認識を持っていなかった。コラム番号，ページ番号ともアラビア数字が使用されたが，Index ではローマ数字で示している。コラム番号，ページ番号ともに誤植はなく，技術的な高さを示している。本文活字はローマン体とゴシック体である。

ペトリは宗教改革が始まるとルターの著作等を中心とする出版を行い，1522 年 9 月にヴィッテンベルクで刊行されたルター訳『ドイツ語新約聖書』の初版が刊行されると，同年 12 月にたちまちその海賊版を刊行した。1523 年にも『ドイツ語新約聖書』を八折判（VD 16 B 4326）で刊行した。この版では前付け（a-f^8 g^4）に数種類の Register（一種の索引）を置いてページ番号を指示した。本文冒頭からアルド A-I タイプでページ番号をローマ数字で付与したが，pp. 4–5, 8–9, 12–13, 16 だけはなぜかアラビア数字である。また，ローマ数字の D（500）を使用せずに C（100）を連ねて 846 ページまでゴシック体活字で印刷したため，ページ数を数えるのが大変やっかいである。それでもページ番号の誤植はほとんどない。

一方，翌年刊行したブーゲンハーゲン（Bugenhagen, Johannes, 1485–1558）『申命記注解 Annotationes ab ipso iam emissae. In Deuteronomium』（8vo., VD 16 B 9247）ではイタリック体活字が使用され，前付け（a^8-b^4）に索引を置いてアラビア数字でページ番号を指示している。本文のページ付けはアルド A-I タイプであるが，大変多くの誤植がある。そのため，索引は大変不確かなものとなってしまった。本文はイタリック体活字で印刷され，ページ番号はアラビア数字が使用されている。

しかしながら，ペトリは 1525 年に刊行したブーゲンハーゲン『新約聖書書簡集注解 Annotationes In Epistolas』（8vo., VD 16 B 9237）では前述の版と同様に前付け（a-b^8）に索引を置き，ページ付けを本文冒頭からアルド A-1 タイプで行っている。この版では誤植が大変少なくなっている。標題紙は木版の縁飾りが四辺を囲み，その中に書名，著者，内容，印刷者，印刷地，印刷年を記載して，近代的な標題紙を完成させている。前述の版では標題紙には著者と書名が記載されただけであったことを考慮すると，ペトリは 1 年間に標題紙および本文の印刷を大きく改善していたことが判明する。

ペトリの最初のページ付けはアルド B タイプであったが，これはコラム番号と同じような位置にページ番号を置いたことで生じた一致であり，アルド B タイプを模したものとは言えないであろう。その後はアルド A タイプでページ付けを行うが，ページ番号にはアラビア数字とともにドイツ語書ではローマ数字も使用した。本文にはゴシック体，ローマン体，イタリック体の活字を使用したが，実のところペトリはページ付けに熱心ではなかった。

6．クラタンデルのページ付け

ペトリの次にページ付けに取り組んだのはクラタンデル（Cratander, Andreas, 1540 頃没）である。1518 年刊行のアグリコラ（Agricola, Rudolf, 1443/44–1485）『小論集 Literaturae pertissimi』（4to., VD 16 A 1123）とエラスムス『追悼演説 De morte declamatio』（4to., VD 16 E 3073）に奇妙なペー

ジ番号を振った。『小論集』では最初の折丁 a の 2–4 葉を pp. 3–8 としたが，次の折丁 b には葉番号 5–8 を付け，以降は葉番号で通した。『追悼演説』は 8 葉の小冊で，折丁 A2–4 を pp. 3–8 としたが，B1 表に 21，B2 表に 6，B3 表に 23 という数字を付与した。両書はクラタンデルのページ付け技術が未熟であったことを証言している。

1520 年刊行のカンティウンクラ（Cantiuncula, Claudius, 1490 頃–1549）『トピカ Topica』（fol., VD 16 C 2042）では 5 葉表から本文が始まり，5 葉裏から pp. 2–127 のページ番号をアルド A-III タイプで印刷したが，誤植は多かった。

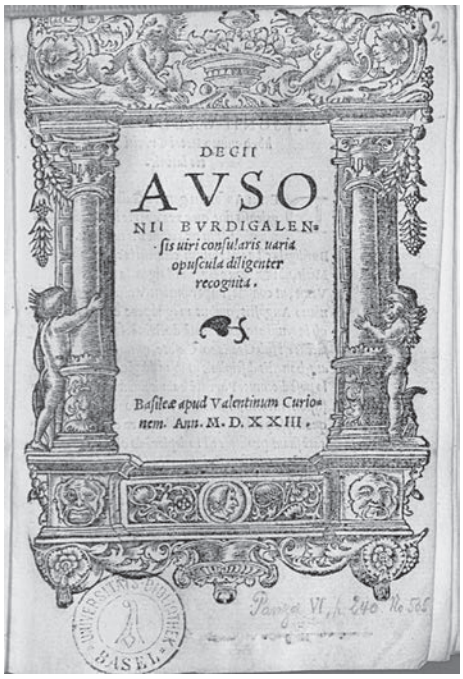
また，1520 年刊行のホメーロス『オデュッセイア 1–2 巻 Homeri Vlysseae Lib. I & II』（4to., VD 16 H 4711）では標題紙の木版の四辺縁飾りの中に著者，書名，印刷地，印刷年を記載したが，自身の名前はコロフォンに記すのみであった。ページ付けは本文が始まる折丁 b からアルド A-III タイプで行い，誤植が格段と少なくなった。

彼は 1520 年以降アルド A タイプでページ番号を印刷し，ローマン体およびイタリック体活字を使用した。クラタンデルはフローベンとともに 16 世紀前半におけるバーゼルのページ付けを牽引した。

7．クーリオとベベルのページ付け

1522 年からページ付けを始めたクーリオ（Curio, Valentin, 1500 頃–32 頃）は 1523 年にアウソニウス（Ausonius, Decimus Magnus, 310–393 頃）『論集 Varia opuscula diligenter recognita』（8vo., VD 16 A 4385）を刊行した。前付けの 3 葉表からの Catalogus（目次）でページ番号を示し，9 葉表からイタリック体で本文を印刷して，pp. 1–249 のページ番号をアルド A-II タイプで付与した。7 ページと 112 ページではページ番号の印刷位置を誤ってヘッドライン左端と右端に印刷したがページ付け技術はしっかりしていた。クーリオは本書の標題紙に著者名，書名，印刷地，印刷者，印刷年を記載して，早くも近代的な標題紙を完成させている（図 2）。これは近代的な標題紙としてはバーゼルで最も早いものであろう。クーリオは同年刊行のストラボン（Strabo, 前 64 頃–後 23 頃）『地理書 Geographica』（fol., VD 16 S 9346）や 1524 年刊行のディオゲネス・ラエルティオス（Diogenes Laertius, 3 世紀）『哲人伝 10 巻 De vita & moribus philosophorum libri decem』（4to., VD 16 D 1837）にも同様な情報を記載した標題紙を掲げ，前付けに索引を置いて本文にアルド A-I タイプでページ付けを行った。ストラボンではまだページ番号の誤植が甚だしかったが，ディオゲネス・ラエルティオスでは誤植は著しく減少している。さらに，1526 年に刊行したペロッティ（Perotti, Niccolò, 1429/30–80）『ラテン語の豊穣の角 Cornucopiae linguae latinae』（fol., VD 16 P 1536）は同様な近代的な標題紙をもち，本文 2 欄組でコラム番号が付与された画期的な版であり，アルド印刷所第 3 版の『ラテン語の豊穣の角』（fol., EDIT 16 CNCE 37579）に学問的な検討を施して改訂された版として注目される[4]。

クーリオはギリシャ・ローマ古典作品にはローマン体とイタリック体活字を使用してページ付け


DECII
AVSO
NII BVRDIGALEN-
sis uiri consularis uaria
opuscula diligenter
recognita.

Basileæ apud Valentinum Curio-
nem. Ann. M. D. XXIII.

UNIVERSITÄTS BIBLIOTHEK BASEL
Pamph. VI, h. 240 No 505

図 2　アウソニウス『論集』クーリオ刊，1523 年，標題紙，バーゼル大学図書館所蔵
（Basel University Library, CC X 2:2, Titelpage）

を行ったが，ゴシック体活字を使用したドイツ語書ではページ付けを行わなかった。

1523 年からページ付けを行ったベベル（Bebel, Johann, 1550 頃没）はギリシャ語ラテン語対訳版ディオニュシオス（Dionysius Periegeta）『地理書 Orbis descriptio』（8vo., VD 16 D 1980）でギリシャ語本文の後にラテン語訳文を掲載して，ギリシャ語本文にはギリシャ・アルファベットで折記号 A- Ξを付け，A3 表から本文を始めて pp. 1–135 のページ番号をアルド A-III タイプで付与した。そして，ラテン語訳文にはページ番号も葉番号も付けなかった。ギリシャ語ラテン語対訳本でギリシャ語文のみにページ付けした例はアルドの 1505 年版アイソポスである。ベベルが 1524 年に刊行したエラスムス『対話集』（8vo., VD 16 E 2349）では標題紙を起点に p. 4 からページ番号を振ったが，誤植が非常に多い。ベベルがページ付け技術に劣っていたことを証言している。これら 2 書の中には各 2 か所ずつ偶数のページ番号をヘッドライン右端に置く誤植を犯しているが，これはアルドの C タイプと通じる。つまり，ベベルのページ付けにはアルドの影響が感じられる。ベベルはローマン体とイタリック体活字を使用してドイツの人文主義者の著作とギリシャ・ローマ古典にページ付けを行った。

8．バーゼルのページ付けの特徴

バーゼルで早期にページ付けに取組んだ印刷業者のページ付け技術の一部を調査した結果，バーゼルのページ付けの全般的な特徴として次の点が挙げられる。ページ番号はアラビア数字が圧倒的に優勢で，その印刷位置はアルドのAタイプが主流である。ページ付けはローマン体，イタリック体，ギリシャ語活字で印刷された人文主義者の著書とギリシャ・ローマ古典に多数見られた。印刷技術については，フローベンは最初から比較的高い技術を示していたが，彼以外の印刷業者は当初は技術獲得に苦労している。ペトリはコラム番号とページ番号の区別を付けずに目次にコラム番号で示して，ページ番号という認識をもっていなかったのかもしれない。ちなみに，コラムに通し番号を早期に付与した例はアルドによって 1513 年に刊行されたペロッティ『ラテン語の豊穣の角』第 2 版（fol., EDIT 16 CNCE 37444）である。アルドは 1499 年に刊行した本書のアルド初版に初めてページ付けを行い，各ページに行番号まで振って索引の精度を高めたが，さらにその精度を向上させようとして 2 欄組にしてコラム番号と行番号を振って索引から語彙を見つけ出しやすくした[5]。ペトリ刊行のムルメリウスの著作へのコラム番号付与はアルド版の影響とはあまり考えられないが，本書は 1 冊の本の中でコラム番号からページ番号に移行した珍しい例である。一方，クラタンデルのようにページ付けがうまくできなかった業者もいた。しかし，1520 年代以降は技術の向上と普及によってページ付けの技術的な問題が解決されて，ページ付けを行う業者が増加した。中でもクーリオは優れた技術をもち，1520 年代前半に近代的な標題紙を備えたページ付け本を刊行したことは印刷文化史上画期的である。

ところが，バーゼルの印刷業者の中でもページ付けの取組には相当な温度差があった。16 世紀前半にバーゼルでページ付けに取組んだ印刷業のページ付け本の比率がそれを明らかにしている（表 3）。上述のフローベン，クラタンデル，ベベルは比較的比率が高く，その後印刷業に就いたフローベンの息子で後継者のヒエロニュムス・フローベン（Froben, Hieronymus, 1501–63）とニコラウス・エピスコピウス（Episcopius, Nikolaus, 1501–64），ハインリヒ・ペトリ（Petri, Heinrich, 1508–79），ヨハン・フローベンの寡婦を娶り印刷所を引き継ぎ，継子のヒエロニュムスに印刷所を渡して独立したヘアヴァーゲン（Herwagen, Johannes, 1497?–1558?），イーゼングリン（Isengrin, Michael, 1500–57），ヴァルダー（Walder, Johann, 1541? 没），ヴェストハイマー（Westheimer, Bartholomaeus, 1499–1567），ヴィンター（Winter, Robert, 1554? 没），ブリリンガー（Brylinger, Nikolaus, 1515 頃–65），バーゼル最大の印刷業者となるオポリヌス（Oporinus, Johann, 1507–68）の比率はさらに高くなり，ページ付けがすでに一般的になっていたことを示している。

一方，ゴシック体を使用してドイツ語書を多く印刷したアダム・ペトリ，ゲンゲンバッハ（Gengenbach, Pamphilus, 1480 頃–1524/25），クーリオ，ヴォルフ（Wolff, Thomas），キュンディヒ（Kündig, Jakob）等はページ付け本の比率が低い。つまり，人文主義者の著作やギリシャ・ローマ古典はローマン体，イタリック体，ギリシャ語活字で印刷されて，ページ付けが行われ，ゴシッ

表 3　16 世紀前半バーゼルの印刷業者のページ付け本の比率

Printer	First	last	All eds.	Paginated eds.	Rate（%）
Froben, Johann	1515	1527	328	181	55.18
Petri, Adam	1517	1527	261	37	14.18
Cratander, Andreas	1518	1550	241	112	46.47
Gengenbach, Pamphilus	1520	1522	91	2	2.20
Curio, Valentin	1522	1531	78	9	11.54
Bebel, Johann	1523	1550	104	40	38.46
Wolff, Thomas	1524	1534	142	11	7.75
Froben, Johann（Erben）	1528	1531	63	48	76.19
Petri, Heinrich aus Basel	1529	1550	224	170	75.89
Herwagen, Johann d.Ä.	1531	1550	115	95	82.61
Froben, Hieronymus d.Ä. und Episcopius, Nikolaus d.Ä.,	1531	1550	234	194	82.91
Lasius, Balthasar	1532	1541	47	17	36.17
Isengrin, Michael	1532	1550	106	69	65.09
Walder, Johann	1533	1541	35	26	74.29
Resch, Konrad;vWolff, Thomas	1534	1534	3	1	33.33
Platter, Thomas d.Ä	1536	1540	44	28	63.64
Westheimer, Bartholmaeus	1536	1546	128	99	77.34
Winter, Robert	1536	1546	138	112	81.16
Schauber, Lux	1537	1538	16	2	12.50
Brylinger, Nikolaus	1538	1542	124	86	69.35
Oporinus, Johann	1538	1550	228	191	83.77
Deck, Rudolf	1540	1545	14	2	14.29
Hospinianus, Leonhard	1541	1541	1	1	100.00
Curio, Hieronymus	1542	1548	26	12	46.15
Kündig, Jakob	1546	1550	62	11	17.74
Froschauer, Christoph d.Ä. : Oporinus, Johann	1549	1549	2	1	50.00
unknown	1535	1550		20	
Total			2897	1530	52.81

ク体で印刷されたドイツ語書にはページ付本が少なかった傾向があるあることが明らかになった。

また，アダム・ペトリを除いて多くの印刷本を出版した業者の方がページ付け本の比率が高いことがバーゼルにおけるページ付け本の比率を押し上げた結果であった。このように，バーゼルでは人文主義書やギリシャ・ローマ古典が多数刊行され，それらの多くにページ付けが行われたことによってページ付けが非常に発展したことが判明した。

9．シュトラスブルクのページ付け本の比率

バーゼル同様に 1515 年にページ付け本が登場したシュトラスブルクはマインツに続いて活版印刷業が始まった由緒ある都市であり，マインツより印刷出版業が発展した。16 世紀の 20 年代まではバーゼルより遥に多くの印刷本が生産されていた（図 3）。シュトラスブルクで最初にページ付け本を印刷したのはマッティアス・シューラー（Schürer, Matthias）であるが，彼自身はページ付け本をわずか 9 版印刷して他界した。1519 年からページ付け本の印刷を開始したヨハン・ショット（Schott, Johann, 1477–1548）は 1548 年までページ付け本の印刷を行ったことで彼自身の印刷物全体では 20％を超える比較的高い比率となった。彼の印刷本の中ではブルンフェルス（Brunfels, Otto, 1488–1534）の著書が 54 版と大きな割合を占めているが，その中でページ付け本の多くは植物図譜である。それらの大半はラテン語書であるが，ゴシック体活字で印刷されたドイツ語書ではローマ数字によるページ付けが行われている（VD 16 B 8501, 8503, 8505）。次にページ付けに取り組んだのは 1533 年から始めたヨハン・アルブレヒト（Albrecht, Johann）であるが 44 版と生産量が少ない。シュトラスブルクで最もページ付け本の印刷に熱心であったのはクラフト・ミューラー（Müller, Kraft, 1503 頃–47）である。彼は，宗教改革者で人文主義者のメランヒトンの著作を 48 版刊行し，またギリシャ・ローマ古典も手掛けた人文主義的な印刷業者であったことからラテン語書の割合が高かった。そのため，ページ付け本の比率が 70％近くに達した。表 4 から 16 世紀前半のシュトラスブルクにはほかにページ付けに熱心に取り組んだ業者がいなかったことが読み取れる。

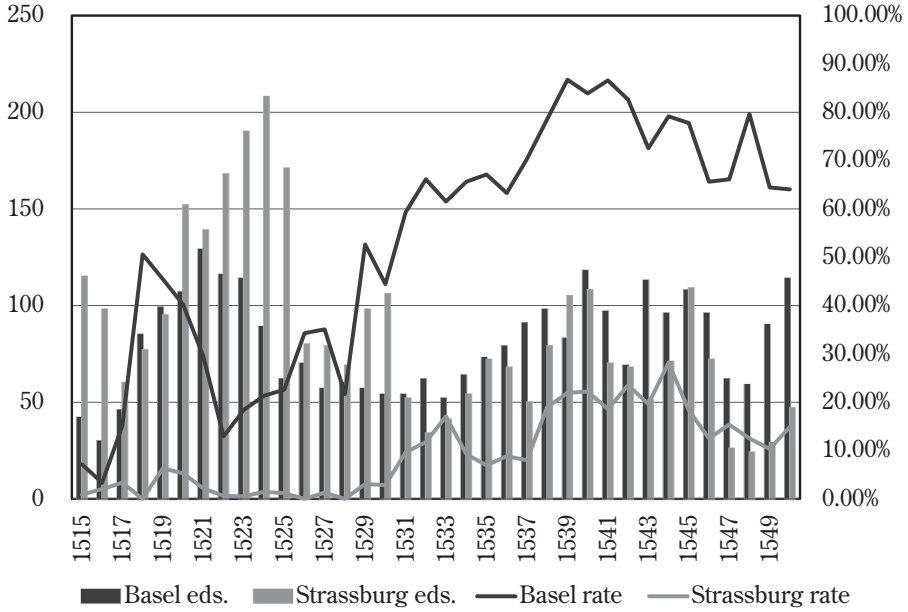


図 3　バーゼルとシュトラスブルクの出版点数とページ付け本の比率

表 4　16 世紀前半シュトラスブルクの印刷業者のページ付け本の比率

Printer	First	Last	All eds.	Paginated eds.	Rate
Schürer, Matthias	1515	1519	357	9	2.52%
Prüß, Johann d.J.	1519	1520	202	7	3.47%
Schott, Johann	1519	1548	214	45	21.03%
Knobloch, Johann d.Ä.	1520	1525	401	11	2.74%
Köpfel, Wolfgang	1524	1543	231	5	2.16%
Egenolff, Christian d.Ä.	1529	1529	73	2	2.74%
Ulricher, Georg	1531	1531	27	1	3.70%
Albrecht, Johann	1533	1538	44	8	18.18%
Apiarius, Matthias	1533	1538	43	2	4.65%
Frölich, Jakob	1533	1550	215	6	2.79%
Rihel, Wendelin d.Ä.	1536	1544	218	26	11.93%
Müller, Kraft	1537	1546	137	95	69.34%
Knobloch, Johann d.J.	1539	1543	42	4	9.52%
Messerschmidt, Georg	1541	1550	27	7	25.93%
Beck, Balthasar	1546	1546	109	1	0.92%
Bund, Sigmund	1547	1547	28	1	3.57%
Guedon, Remigius	1547	1549	7	4	57.14%
Müller, Kraft（Witwe）	1547	1548	5	2	40.00%
Fabricius, Blasius	1549	1549	5	2	40.00%
Total			3149	238	7.56%

多くの印刷業者はゴシック体活字を使用したドイツ語書の印刷を行っていたことから，ページ付けには不向きであったことが判明する。すなわち，シュトラスブルクはバーゼルに比べてページ付け本への取り組みが鈍かった。その理由はページ付け本を熱心に印刷した業者が非常に少なかったことと，ゴシック体活字を使用したドイツ語書が多く，ラテン語による人文主義書が比較的少なかったためである。

10. まとめ

以上述べてきたように，印刷本のページ付けは 1499 年にヴェネツィアのアルド・マヌーツィオが索引のために初めて行った。彼はギリシャ・ローマの古典等 17 版のページ付け本を刊行した。それらはページ番号の位置によって A-C の 3 タイプに分類されるが，最終的には表面でヘッドライン右端，裏面でヘッドライン左端にページ番号を印刷する A タイプが選択された。アルドの影響はバーゼルの印刷業者に及び，その中でもフローベンが最も早くから人文主義書にページ付けを

行った。フローベンはアルドAタイプでページ番号を印刷した。それを契機にバーゼルではギリシャ・ローマ古典と人文主義書を印刷出版する業者がページ付けに熱心に取り組んだことでページ付けの印刷技術がたちまち広まった。バーゼルでは例外はあるものの大印刷業者ほどページ付けに積極的であり，彼らはローマン体，イタリック体，ギリシャ語活字を用いて人文主義書等を盛んに出版した。また，1520 年代のバーゼルでは，ページ付け本の標題紙に著者名，書名，印刷地，印刷業者名，印刷年を記載するクーリオのような優れた技術をもった印刷業者が登場して，近代的書物形態を完成させていった。

一方，シュトラスブルクではページ付けに熱心に取り組む業者が極めて限られており，都市の内部で技術の面的な広がりがなく，しかもゴシック体活字を使用したドイツ語書が多く刊行され，人文主義書が少なかったことからページ付け本の印刷があまり進展しなかった。

本研究の今後の課題としては，ケルン，リヨン，パリにおけるページ付け本の普及を調査してその特徴を明らかにすることである。特に，フランスの印刷本の調査は書誌データベースの記述が不十分であるため，現物調査によって書誌を完成させながら，ページ付けを確認していく必要がある。16 世紀のフランスはヨーロッパで最も多くの印刷本を生産したため，調査対象が膨大であり，調査に相当の時間を要する。また，同時にアントワープとロンドンにおけるページ付け本の調査も進めていき，ページ付けがライン川流域地方からどのように普及していったのか考察することである。

謝辞

本発表は JSPS 科研費 JP17K00454 の助成を受けたものです。

付記

本稿は 2017 年 12 月 9 日に慶應義塾大学で開催された国際会議 The Book in Transition, the East and the West で発表した ‘The origin of pagination in Europe: a contribution of Aldus Manutius’ の一部を日本語にした原稿と，2018 年 11 月 3 日に琉球大学千原キャンパスで開催された第 66 回日本図書館情報学会研究大会で発表した「16 世紀前半バーゼルにおけるページ付けの発展プロセスについて」の原稿を合わせて改訂増補したものである。

［注］

1　拙稿「西洋におけるページ付けの起源と発展過程について」『学術研究（人文科学・社会科学編）』66 号，2018，p. 67–83.

2　K. Yukishima, ‘The origin of pagination in Europe: a contribution of Aldus Manutius,’ The Book in Transition, the East and the West, Keio University, 9 December 2017.

3　Sebastiani, Valentina, *Johann Froben, printer of Basel: a biographical profile and catalogue of his editions,* Leiden: Brill, 2018, pp. 41–42.

4　拙稿「最初にページ付けをした本，ペロッティ『ラテン語の豊穣の角』をめぐって」『書物学』10，2017，p. 15.

5　前掲書，p. 11.